

随 想

21世紀都市の安全と安心を考える

岩 崎 森 治
(横浜市消防局長)

横浜市はいま、きたるべき21世紀における高度情報化社会に向けて、インテリジェントシティ構想（建設省指定）、テレトピア構想（郵政省指定）、ニューメディアコミュニティ構想（通産省指定）など、現在、開発中のみなとみらい21（MM21）地区を中心に着々とその具体的計画を推進中ではありますが、やがてやってくるであろう新しい社会を迎えるにあたり、防災的アプローチを消防サイドから積極的に取り組んでいく必要があると考えております。

特に、横浜市では来年が、開港130周年、市政100周年という記念すべき節目の年に当り、横浜博覧会（Y E S '89）を始め多くのイベントが企画されており、これを契機に21世紀に向けて横浜市が大きく飛躍するためのインパクトになることを期待されております。

横浜市消防局もこれに併せ、「横浜国際防災コンベンション事業計画」を策定し、去る5月これの実行委員会を発足させ、来年7月の開催に向けスタートいたしました。

この事業は、「横浜国際都市防災会議」と「横浜防災システム展'89」の二つを主要事業とし、そのテーマは「ヨコハマで語ろう21世紀都市の安全と安心を」であります。

21世紀社会は、至るところに情報・通信関連装置が配置され、それらが複雑なネットワークを通して結び合わされ防災面でも限りない可能性が期待されます。異常の発見、通報、緊急処置、さらには救急医療体制など安全な街づくりに大きく貢献するものと予測されます。

しかし、技術的安全と人々の感じる安全とは違うものであるという認識をもたなければなりません。高度情報化社会とは、一方でネットワークのレベルダウンや途絶があり得る社会であり、大地震時等にはこの情報の途絶が社会生活に大きな混乱と支障をきたすことは、東京都世田谷区のケーブル火災の例をみるまでもなく容易に予想されます。新しい社会とは新しい不安を生む社会でもあると言えます。

その安全と安心を支えるものは何か、それは「バックアップ体制」の確立にほかなりません。そこにハード、ソフト両面からの都市のトータルセキュリティーの構築が必要です。

21世紀を迎えるに当り、市民が安心して生活できる都市づくりシステムはいかにあるべきか、国内外の行政、学識経験者、企業、市民等広い階層の人々に呼びかけ世界から知恵と技術と情報を持ち寄っていただき21世紀都市の安全と安心をヨコハマで大いに語ってもらおうと今、着々と準備を進めております。